

**特 版****『隅田川』の「橋」を中心とする環境情報一覧表について**

首都圏の河川と関連橋類の研究者 鹿子木 孝男

隅田川については、赤羽の「新神谷橋」から、当時最南端の「勝鬨橋」まで一日かけて歩いたことがありました。それから15年、河口に「築地大橋」が架橋され、現在 新設移転の豊洲市場との間に限定されたような形で利用が進んでいます。

本表の「橋」中心の一覧表づくりは、私が84歳になった年から試行錯誤を続けて、漸く辿りついた「形」で、下地は玉川上水に始まり、神田川、野川がほぼ完成しましたが、当隅田川では、架けられた橋のバラエティのある姿をイラストで表すこととし、下手ですが趣のある表となりました。

そこで、表全体の各項について、以下の様に説明させていただきます。

**1. 橋名と両側の側道欄の意味と有無について**

隅田川のスタートになる「新岩淵水門」の両側は堤防と接していますが、下流側には遊歩道があり対岸に渡れ、その先は「荒川堤」です。この堤と水門は、当時 荒川が隅田川と合流し、毎年のように東京に洪水を招来していた状況を解決するために、水門造りから新荒川放水路「堤防間の川幅500m」の水路開削を東京湾まで実現する大工事のスタート地点で、明治44年(1911年)から昭和5年(1930年)の約20年間で完成させたもので、以来 洪水のない隅田川となりました。

この間、関東大震災もあり、川筋に新しい強固で多様な橋が実現したのです。

側道は、江戸時代のように川岸を親しめる場所とするために、都が工事を進めてきた経過があり、その進捗状況を見るための印です。

**2. 水門(源流)からの距離、隅田川の水源地を岩淵水門とし、「0地点」としました。**

そこで各橋間の距離を水門からの積算(累計)で表しています。なお、橋間距離は橋幅の中心点で起算しています。

**3. 橋の長さは、橋を渡らせる道路構造に左右されるため、川幅とは一致しません。**

極端に長い橋は、着地点まで高架となるケースです。例：千住大橋、佃大橋 等

**4. 橋下での水流の方向を矢印で表示しましたが、上流部では曲流があります。****5. 別格橋梁の機能：「レインボー橋」は最高海面高50m、「ゲートブリッジ」は約55mで、近年の海外大型客船は通れないため、東京港では 船の科学館前に、制約を受けない客船埠頭を建設中です。****6. 橋名左右の川及び橋の各種所在環境情報付記**

- ・ JR、私鉄、地下鉄等 近在する交通機関駅名など
- ・ 上流では、荒川、新河岸川との関連 下流では、流入河川、運河との関連
- ・ 所在地関連の自治体、町名など
- ・ 目立つポイント、寺社、ビル、学校、公園、文化施設など
- ・ 史跡、渡船場跡、 etc.

以上